

登録有形文化財、最初期のかんがい用コンクリート造重力式堰堤

江畑溜池堰堤



初代の江畑溜池はかんがい用溜池として明治22年（1889年）に現在地の約500m上流に土堰堤で完成しましたが、翌23年の豪雨により堤防が決壊したため下流に大きな被害をもたらしました。その後再建計画が立てられましたが、被害を受けた下流の賛同が得られず実現にはいたりませんでした。現在の江畑溜池堰堤は災害から40年を経た昭和2年（1927年）に再建が計画され、翌年9月に起工、同5年（1930年）12月に完成したものです。

江畑溜池堰堤は玉石コンクリート造重力式かんがい用ダム堰堤で堤高14.4m、堤長68.8m、堤体積17,100 m^3 、貯水量が45万 m^3 となっています。中央部に三カ所の越流部が設けられ、越流部脇には半円形平面の取水塔、そして堤体に通水用のトンネルが設置されています。また、流下水のエネルギーを減勢させるために、本堤下部から約9mの位置に深さ2.4mの水溜堰を設け、余水を落下させる方式となっています。

堤体の勾配は上流側が85度、下流側が50度で、表面には上・下流側ともに花崗岩の張石が用いられています。山口県の技師武富憲時、技手の荒瀬長一を中心に建設されたこのダムから、昭和初期の堰堤建設技術をうかがうことができます。

わが国でかんがい用ダムの歴史は古く、七世紀前半に築かれたとされる狭山池堰堤（大阪府）が最初といわれています。その後、二十数万のかんがい用ダムが築かれていますが、大正時代までは土堰堤です。

日本で初めてコンクリートダムが造られたのは、明治33年（1900）水道専用ダムである布引五本松ダムで、現在も神戸市の水源として利用されています。しかし水道・発電用とくらべて、かんがい用のコンクリート・ダムは昭和になってようやく造られるようになりましたが数も少なく、そのなかで江畑溜池堰堤はもっとも初期のものとして知られています。

江畑溜池堰堤はその重要性から平成13年10月に文化庁登録有形文化財（建造物）に登録されています。残念なことに堰堤の高さが14.4mであるためダムとしては0.6m高さが足りず分類では堰となっています。

位置図



概要

構造形式 玉石コンクリート造重力式ダム
堤長 68.8m / 堤高 14.4m /
貯水容量 45万 m^3

着工 昭和3年（1928）9月
竣工 昭和5年（1930）12月

所在地 山口県山口市阿知須



表面は上下流側ともに黒々とした花崗岩が張られている。



江畑溜池堰堤（山口市阿知須）



半円形平面の取水塔から底樋を通して下流に供給される